じょうほう通

The 1st EAST-WJ 出席報告*

佐藤 裕**

Report of "The 1st EAST-WJ"*

by SATO Yutaka**

キーワード The 1st EAST-WJ, 東アジア, 溶接・接合技術シンポジウム, 日本, 韓国, 中国

平成23年5月31日(火)～6月2日(木)の日程で、第1回東アジア溶接・接合技術シンポジウム(The 1st East Asia Symposium on Technology of Welding and Joining; The 1st EAST-WJ)が中国・上海市で開催されました。本シンポジウムは日本、韓国、中国を中心とした東アジアにおける溶接技術の発展を目指し、溶接研究者・技術者が一同に会する場として、今年度から始められたものです。日本からは、高会長、平田副会長をはじめ20名が参加し、開催国の中国を除けばかなりの存在感を示しておりました。多くの参加者の中で、筆者が報告記事を書くこと自体、大変恐縮ではございますが、私見を交えながら本シンポジウムについて簡単にご報告させていただきます。

本シンポジウムは上海市の北東部、市街からは12km近く東に離れた地域を中心に開催されました。5月31日(火)はRegistration、講演発表は6月1日(水)に行われ、6月2日(木)はBeijing Essen Welding & Cutting Fair(@上海新国際展示場)の見学というスケジュールでした。筆者は日程の都合上、6月1日のシンポジウムのみに参加したため、本稿ではこの部分に限定して記させていただきます。

シンポジウムの会場は上海碧悦城市酒店(Benjoy Hotel)でした(図1)。総勢100名超の参加者が集い、Opening Ceremonyでは空席もないくらいの大盛況でした。出席者数は開催国の中国から43名、日本から20名、韓国から8名であり、その他、併催されたアジア溶接連盟(Asian Welding Federation; AWF)への参加国、例えばシンガポール、インドなどから30名ほどの参加がありました。

Opening Ceremonyは、中国・上海交通大学のProf. Wuの進行のもと執り行われ、Prof. Wuによる各国のExecutive Membersの紹介、中国溶接学会(CWS)会

長のProf. ShanによるOpening Address、中国機械学会事務局長によるご挨拶がありました。いずれも「今後の東アジアでの溶接技術の発展には、日本、中国、韓国の連携が必要であり、本シンポジウムをとおして3カ国間の関係をより密なものにしましょう」という内容のものでした。その後、JWSの高会長、CWSのShan会長、KWJS(韓国溶接接合学会)のLee会長が、東アジア溶

図1 会場となった上海碧悦城市酒店(Benjoy Hotel)

図2 オープニングセレモニーの様子1

*原稿受付 平成23年6月30日

**正員 東北大学 Member, Tohoku University

図3 オープニングセレモニーの様子2

図5 一般講演の様子1

図4 南教授による基調講演

図6 一般講演の様子2

接・接合技術シンポジウム開催に関する同意書にサインし、本シンポジウムが正式に発足しました。

Opening Ceremony に引き続き、Plenary Session が行われ、以下3件の基調講演が行われました。

1. Investigation on Ductility Dip Cracking Susceptibility of Ni-based Alloy, by Prof. Hao Lu (上海交通大学)
2. Equivalent CTOD Concept for Constraint-Based Assessment of Fracture of Steel Components, by 南二三吉教授 (大阪大学)
3. Weldability Study on the CrMoV Steel for Reactor Application, by Dr. Dae Soon Kim (現代重工業)

昼食を挟んで午後からは2つの会場に分かれて、合計4つのセッションが行われました。講演内容は、溶接力学、モデリング、溶接現象、センシング・制御、溶接冶金など溶接工学の全てを網羅しており、また、溶接法としてもアーク溶接、レーザ溶接、スポット溶接、ブレージング、FSW/FSSW などあらゆる施工法がカバーされており、東アジアでの溶接・接合技術の発展を願う本シンポジウムの主旨に合致するようなものでした。開催されたセッションの名称と講演数は以下のとおりです。

- ・Advanced Welding Process & Technology for Industry 1
日本：1件 (三重大・尾崎氏)，中国：4件，韓国：2件
- ・Advanced Welding Process & Technology for

図7 一般講演の様子3

Industry 2

日本：2件 (広島大・山本氏，大阪大・橋本氏)，中国：3件，韓国：1件

・Welding Phenomena and Characterization 1

日本：3件 (大阪大・辻村氏，同・川人氏，同・野村氏)，中国：4件，韓国：1件

・Welding Phenomena and Characterization 2

日本：5件 (大阪大・Lu氏，同・才田氏，近大・生田氏，広島大・篠崎氏，住金・岡田氏)，中国：3件，韓国：1件

パラレルセッションで行われたため、全ての講演を聴くことができませんでしたが、小職が参加したセッション

図8 バンケットの様子1

図9 バンケットの様子2

ンでは、いずれも溶接・接合技術に関わるホットな講演が多く、講演後にも活発な討論が行われていました。

シンポジウム終了後には、宿泊ホテルとなっている上海佳友維景大酒店（Grand Metropark Jiayou Hotel）にて、Welcome Banquet が開催されました。開催国である中国からのご挨拶のあと、JWS の高会長のご挨拶と乾杯により Banquet がスタートしました。各種中華料理に舌鼓を打ちながら、青島ビールを飲むというスタイルであり、ビール好きの筆者にとっては幸せなひと時でした。

本シンポジウムをとおして、日本、韓国、中国を中心とした東アジアでの溶接技術の向上・発展を参加者全員で推進しようという強い思いを感じることができました。日本からは、“若手”に属する方が多く参加しておりましたが、韓国と中国からはあまり多くなく、多少残念に思いました。しかし、今後十年、二十年後を考えたとき、東アジアをリードしていくべく若手研究者・技術者のグローバルなネットワークは極めて重要と考えます。若手研究者・技術者のネットワーク構築を願う一人として、次回以降のシンポジウムには、より多くの若手

研究者の参加が得られるよう韓国、中国側に働きかけてきました。昨年まで実施してきた日韓若手研究者シンポジウムのように、若手研究者・技術者の研究面に限定しない密な関係が作れる環境と雰囲気が本シンポジウムに生まれることを期待しております。

第2回シンポジウムは来年、日本で開催されることになっております。日韓中の溶接・接合界を代表する皆さんが日本に会して、東アジアの溶接ネットワークを作り上げる取り組みが行われることを楽しみにしております。最後になりましたが、新たなシンポジウムの立ち上げにご尽力いただいた皆様、第1回シンポジウムをオーガナイズいただいた CWS 関係者、若手ネットワーク構築の取り組みにご協力いただいた平田副会長、広島大・山本先生、大阪大学・川人先生、三重大学・尾崎先生に感謝の意を表します。また、本シンポジウムへの若手研究者の派遣に、溶接学会記念基金助成活動「若手溶接技術者・研究者のグローバルネットワークの形成」委員会への助成金の一部を使わせていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。